

Reitaku Association for Overseas Development

麗澤海外開発協会 会報

平成17年
(2005年)

6月1日

第4号

第3巻 第1号

年2回発行

主な記事

巻頭言 挨拶(廣池幹堂)
報告 スタディツアー/事業報告
お知らせ 平成17年度スタディツアー募集
その他 寄付金等の報告

発行所: 財団法人麗澤海外開発協会
〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1
TEL.04-7173-3165 FAX.04-7173-8953
<http://www.reitaku.or.jp>
発行人・岩田啓成 / 編集人・横山守男

これまでの経験と実績を踏まえ より積極的な国際協力活動を



..... (財)麗澤海外開発協会 会長 廣池 幹堂

麗澤海外開発協会は、「発展途上国において文化・経済の発展に協力するため、人材の育成と技術指導を行い、もって世界の平和、人類の安心と幸福に寄与すること」を目的に、昭和46年(1971

年)に外務省所管の公益法人として設立されました。爾来30年以上にわたって発展途上国における文化・経済の発展に資する人材の育成と技術指導を推進し、現在は主にネパールにおける鍼灸専門家の育成および治療を実施する事業への助成、タイ北部での少数民族の子供たちの生活・教育施設の運営(メーコック財団)等への助成を推進しております。

また、一昨年より、麗澤大学教授で当協会理事の竹原茂氏(旧名:ウドム・ラタナヴォン 出身国:ラオス)を発起人とする「竹原基金」を設け、東南アジア諸国で貧困等の理由で学校へ行けない多くの子供たちのための教育助成事業も推進しています。当協会へのご入会ならびに竹原基金へのご協力等に対しては、皆様方に多大のご協力を

いただいております。紙上をお借りして厚く御礼を申し上げます。現在、当協会では、これまでの経験と実績を踏まえ、発展途上国を中心に心の通う国際協力活動を推進するために、海外交流等に携わっている方々を対象に情報収集を

行い、東南アジア諸国に役員を派遣するなどして、より積極的な国際協力・支援のあり方についての調査・検討を進めております。皆様方からも、これからの国際協力・支援のあり方に関する忌憚のないご意見・情報をお寄せいただければ幸いです。

今日、深刻な政治的・経済的諸問題と取り組む発展途上国の姿を見るとき、先進各国との経済格差はますます広がってきております。これらの諸国に対して援助の手を差しのべることは、今日の経済的繁栄を享受している私どもの果たすべき役割といえましょう。

21世紀を迎えている今、麗澤海外開発協会では、これまでの30年余の経験と実績を踏まえ、あらためてその使命を確認し、今後とも発展途上国における人材育成や支援等、より積極的な国際協力活動を推進していきたいと念願しております。そのためには、皆様方の絶大なるご支援とご協力が必要不可欠です。今後とも、会員へのご入会ならびに竹原基金へのご協力等、当協会の諸事業に対するご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



タイ



タイ・スタディツアーを実施 国際協力を肌で体験

今年2月13日から8日間の日程で行われた「タイ・スタディツアー」には、20代を中心に4名が参加。当協会が支援するメーコック財団に滞在し、タイの文化・歴史や庶民の生活の様子を学ぶことができました。

以下に参加者のレポートを紹介します。



チェンライにあるパーサー小学校で子供たちと

スタディツアーを終えて 桑島義智

モラロジー研究所職員



私の英語力は初心者レベルだったため、事前にタイ語での挨拶や自己紹介、数字、その他自分が使いそうな日常会話程度を覚えていきました。おかげで町での買い物等には特に不便なことはありませんでした

が、ピパットさん(メーコック財団会長)やガイドの方は英語を流暢に話せたので、私はタイ語を覚えると同時に英語も勉強しておくべきであったと反省させられました。タイでの滞在期間中、自分の語学力の無さを痛感させられました。

現在、メーコック財団の生活・教育施設には24人の少年少女が生活しています。彼らは両親が他界したり、家庭の事情で育てられなくなってしまった少数民族の子供たちです。メーコック財団は、そんな彼らを引き取り、タイ社会で生活ができるように教育支援活動をしているタイの現地法人です。彼らは、ほとんどの食事を自給自足でまかなっています。魚の養殖、鳥の飼育、野菜や薬草類を育てたりもしています。

メーコック財団に着いた最初の夜に、子供たちが自主学習している集会所に行きました。私は覚えていった片言のタイ語で自己紹介をし、特技である空手の形を演舞して見せました。子供たちは空手にとても興味を持ってくれ、私に「カラテ、カラテ」と懐(なつ)

いてきてくれました。子供たちが通っている小学校でも空手を演舞し、4泊目の最後の夜には予め持参した空手胴着を着て演舞をしました。



無邪気に寄ってきてくれる子供たち

その夜に子供たちは「空手を教えて!」と言ってきたので、簡単なパンチや蹴り技を、30分くらい教えてあげました。

メーコック財団での2日目の夜に男子の宿舎に遊びに行くと、ある子供がギターを弾いていました。弾いていたギターは弦がボロボロの上に切れていて、チューニング(音合わせ)もバラバラでした。私はチューニングを合わせ、何曲か奏でると子供たちはとても喜んでくれました。翌日、町で買ってきた弦を子供たちにプレゼントしましたが、宿舎にギターがあることを知っていたら、日本から弦や簡単な楽譜を持ってきてプレゼントできたなあと思いました。今回の訪問時には、弦とチューニングの仕方を教えたいと思います。



子供たちに空手を教える

私はこれまで5年間にわたり、モ

ラロジー研究所で職務に励んできましたが、今回の滞在を終えて、自分の視野の狭さをとても痛感させられました。仕事で如何に一生懸命頑張ってきたとしても、私がアジア人の一人である以上、国際協力はしていくべきです。私はタイに行くまで、自分の日々の業務に追われ、アジアにはほとんど目を向けていませんでした。私が見てきたメーコック財団にいる子供たちは、両親がいなくとも、タイやアジア全体の貧しい人々と比べると、まだ幸せな生活ができていると思います。世界にはもっともっと援助すべき人々がいるのです。私は今後、さらに語学やアジア情勢を勉強し、メーコック財団を含めた様々なボランティア活動に積極的に取り組んでいきたいと思っています。



タイの子供たちから学んだこと

小林 良平

廣池学園職員

約1週間の日程で行われた今回のスタディツアー。短い期間でしたが、毎日のように様々な場所を訪れ、たくさんの人々と触れあうことができ、その度に新たな発見や驚き、感動を味わいました。

我々が主に滞在していたタイ北部のチェンマイ県やチェンライ県などは、山奥の地域を除き、インフラはある程度しっかり整備されているものの、必要以上の建物や機械などはなく、豊かな自然とのどかで「手作り」な雰囲気にあふれていました。多くの人々が伝統的な生活スタイルを守り続けている様子で、市場などでも、並んでいる商品はどれも手作りの自然食や民芸品ばかりでした。人々も質素で落ち着いた生活を楽しんでいるようで、町全体に暖かくゆったりとした雰囲気漂っていました。竹原茂先生(麗澤大学教授)が現地でおっしゃった「何十年か前の日本と一緒だよ」という言葉は、ものすごく的を射たものだと思います。

それに反し、そういった佇(たたず)まいの中でも、寺院や仏塔や礼拝所といった仏教関係の建物だけはまさに「豪華絢爛」であり、その大きさや美しさにしばしば圧倒され、タイがいかに仏教を基盤としてきた国であるかということ、宗教がいかに人々に多大な影響を与えるものであるかということ強く思い知らされました。

また、最終日に訪れたバンコク市内は、そのような大規模な寺院がいくつも建てられているその周辺に高層ビルが立ち並び、たくさんの人や車が往来しているという、我々にとっては不思議な光景を目にすることができ、また違った意味でのカルチャーショックを体験することができました。

ただ、我々にとって最も貴重な経験であったのは、タイの人々、特にタイの子供たちと触れ合い、そこからいろいろな刺激や感動を与えられたことでした。特に、メーコック財団での出会いと体験は忘れることができません。

我々はこの山奥にある施設に5日間滞在させていた



象の背中は想像以上に揺れが激しい

だき、財団の職員の方や20数名の子供たちと一緒に生活をしました。その施設で生活を送る子供たちは、毎朝6時前に起床して学校へ行く前に掃除や洗たくや自分たちの弁当の用意をし、学校から帰った後も掃除や夕食の支度、そして

夕食の後も施設内の教室で勉強をし、10時前には就寝といった、とても規則正しく自立した生活をしていました。そのような、一見すると大変そうな生活の中

でも、我々を見かけると誰もが笑顔で挨拶をしてくれ、また時間があるときなどは、一緒に遊ぼうと言わんばかりに嬉しそうに駆け寄って来て腕を引っ張っていく子供たちの姿。そんな彼らの素直で好奇心旺盛な姿勢と、ひたむきできらきらと輝く瞳は、今の日本の子供たちや若者に一番足りないものではないかと感じさせられました。

また、今回のツアーでは、日本がいかに物質的に恵まれた生活を送っているかを実感することができましたが、その反面、日本人は、できること・やらなければならないことが多すぎるため、人々の考えや行動などが、氾濫する物や情報に流されているような気がしました。特に若者の多くは、そういった騒がしい日々の生活の中で心をコントロールすることができず、自分自身を見失ってしまい、「精神的な不幸」になっているのではないのでしょうか。逆に、喧騒な雰囲気とはかけ離れたのんびりとした環境の中でも、自分のことは自分で何でもこなさなければいけないようなメーコック財団での生活は、決して物質的に恵まれているとは言えませんが、子供たちにとっては向上心や満足感を得られる絶好の機会であると思いました。それと同時に、精神的な幸福のためには、自立のための教育がいかに必要なかということも、子供たちの姿から学ぶことができました。

今回のツアーを通じて強く考えさせられたことは、我々は身近な国々について、そしてそういった国々に日々苦しい生活を送っている人が大勢いるということに関して、知識もなく、あまりにも無頓着でいたのだということです。これからの国際化の時代の中で日本は、同じ共同体の中にいるアジアの人々のことにもっと関心を持ち、協力をしていかなければならないと思います。そういった活動に積極的に取り組んでいくことで、日本人も精神的な幸福感を得られるのかもかもしれません。

今回のツアーではこういったたくさんの発見や気づきがあり、国際協力に対する考え方がよりいっそう深まったと思います。このような経験をもっとたくさんの日本の若者にしてもらえれば、と切に願います。



民族衣装を着た子供たちと

スタディツアーを終えて

小山 晋平
立正大学2年

同じアジアの中の国タイ。日本とは気候、文化、景観も違う。そこは日本では体験できないものがたくさんあり、新しい発見を得られるだろう。その発見を求めて私は今回のスタディツアーに参加しました。

スタディツアーは、高い料金を払って、きれいで高級なホテルに泊まり、レストランで贅沢な料理を食べて、その分の価値に満足度を得るのではなく、現地の人々が食べにいく普通の料理屋でご飯を食べ、ありのままの生活をする。一週間で、いろいろな場所に行き、地域の様子を目で見ることができた。接した人々は、みな暖かくいい人たちばかりで、交流はとても楽しかった。こうしたことから実に充実した日々を過ごせて、満足感でいっぱいです。

タイは本当に良い所だった。訪れた北部の街のチェンマイ、チェンライは人口もある程度いるが、田舎でのどかな自然があり、意外と涼しく過ごしやすい所が好きである。それに対してバンコクは、大都会で高層ビルが立ち並ぶ近代的な都市で、その景観には驚いた。気候も日本の夏と同じようなじめじめとした暑さで、歩くのがつらかった。半日しかいなかったが、あまりいい印象は受けなかった。

タイの良かったところとして、毎日の食事があげられます。私は、人一倍食べるのが好きで、量も人の2倍は食べます。しかし、好き嫌いもけっこうあるので不安でした。タイ料理は辛いのか甘いのかの極端なものも多く、はじめは驚いたが、だんだん慣れてきて大体の物はおいしく味わうことができ、中でもおかゆとフルーツがよかった。スタッフの人たちは毎回たくさんの種類と量を私たちにもてなしてくれ、とてもうれしく、つねにお腹いっぱい食べていた。タイ料理は絶品です。ごちそう様でした。

チェンマイでメーコック財団の責任者のピパット先生の家に2泊した後、チェンライの近くのメーコック財団に行き、いろいろな問題を抱えている少数民族の子供たちと生活を共にしました。着いて間もなく広場



ヤシの実を運ぶお手伝い

で一緒にサッカーをして交流をした。素足で芝生を走るのはなんて気持ちいいのだろう。子供たちはみんな元気で明るく、来たばかりの私たちにすくなついて

くれた。かわいらしく、目が輝いていて、たくましく、本当に純粋な印象を受けた。

ここでの生活は、とても規則正しい。子供たちは毎日朝5時に起きて掃除や洗濯をし、飼っている動物にえさをあげてから学校に行く。私も同じ時間に起きて行動しようと思ったが、起きられなかった。それでも、日本ではまず12時前には寝なかったが、11時には寝て6時に起きる。そんな日の繰り返しで、健康的な生活をし、自分のだらしない生活習慣を見直す場所となった。

メーコック財団は、人と人とが関わり合い、寝食を共にする。日本みたいに発展していて情報がすぐ入り、何も不自由なく生活できる場所ではないが、自然の中に生きる生き生きとした子供たちの様子は、見ている私もいいものだ実感できた。自分にとって刺激的で、視野を広く持つこと。一緒に成長していける。そんな場所であった。

4日間はあっという間に過ぎていき、その間は少しだが、子供たちの落ち葉拾いや料理、ナマズにえさをやる作業を手伝った。他にも腕相撲をしたり、英語を勉強したりと、非常に楽しかった。言葉が全然わからなくコミュニケーションをとれないのが残念だったが、こんにちは、ありがとう、どういたしまして、おやすみなさい、の単純な言葉を交わすだけでも喜びがあった。

子供たちのことが好きになり、もっと一緒にいたい、帰りたくない、そんな思いでした。ここにまた是非来たい。今回は作業を少し手伝っただけで、ボランティア活動をほとんどしなかったのが、今後は、そういうことをして役に立ちたい。

メーコック財団の施設が、国際協力や支援でさらに子供たちのためになる場所になることを願っています。

最後になりましたが、ツアーでお世話になった、ピパットさん、クンさん、運転手さん、その他現地の方々、そして日本から一緒に行った、竹原先生、桑島さん、小林さん、ありがとうございました。楽しい旅行はみなさんのおかげでさらに良く、かけがえのないものになりました。スタディツアーに参加して良かったです。



モン族の伝統衣装に着替えて記念撮影

体験と自己研鑽の旅

麗澤高等学校

普通の旅行では行けない所に行ったり、人に会ったり、とにかく考えられない生活ができました。

平成16年12月21日～29日、タイ・スタディツアーに本校4年生と5年生(高校1年生と2年生)の14名が参加しました。このツアーは、体験・交流・自己研鑽が中心の旅行で、麗澤大学では毎年行われていますが、本校としては初めての企画でした。

最初の2泊はタイ北部の都市チェンマイ近郊の一般家庭でホームステイをし、次の4泊はタイ最北部チェンライ近郊の施設「メーコック財団」(MKF:メーコック・ファーム)に滞在しました。

私たちは、ワゴン車で移動していましたが、カレン族の村からはメーコック川を象に乗って渡り、対岸からMKFの子供たちが手をふって歓迎してくれました。MKFの子供たちは、一生懸命生活し、その頑張りや笑顔は心を打つものがありました。また、この施設を支えるスタッフの方々の惜しみない努力にも感服しました。年に1度のイベントであるクリスマスパーティーでは、正装である民族衣装をまとい、民族舞踊を披露してくれるなど交流が一段と深まりました。対抗して日本代表の私たちは数十年の歴史を誇る「ラジオ体操」を披露しました。

この旅行は、タイ語が全くわからなかったり、水洗トイレではなかったりなど、戸惑うことがたくさんありました。しかし日本での生活では考えられない体験がたくさんあり、毎日が感動の連続でした。一生懸命生きること、よどみない素直な心、支えあう大切さなど、人生観・価値観を改めて考えさせられるものでした。MKFの最大の功労者ピパット先生、奥様のアヌラックさん、現地スタッフのクンさん、添乗員の椎山さん、麗澤大学教授の竹原先生に感謝いたします。

(引率/西野 徹)

(ホームステイを経験して)ホストファミリーがジェスチャーとか日本語のプリントとかを見て一生懸命コミュニケーションをとってくれたことが嬉しかったです。日本語を調べて『どうぞ、お楽しみに』と書いて見せてくれたのは、特に嬉しかったです。
(5年 根本真希)

普通の旅行では行けない所に行ったり、人に会ったり、とにかく考えられない生活ができました。
(5年 渡邊ひとみ)

(MKFの子供たちと交流して)ピン(MKFの女の子)に話しかけられて本当に嬉しかったです。あんなに仲良くなれるとは思いませんでした。最高の思い出です。手紙に『忘れません』と書いてあって感動しました。一緒にいる時いつも手をつないでくれて本当にかわいかったです。別れる時泣いてくれて、私も泣きそうになりました。タイで一番嬉しかったことです。
(5年 高倉南)

(旅行全体を通して)また来年も行けたら絶対行きたいです!
(4年 本田麻美)

子供たちは何でも自分でやっていて、自分がそのくらいの年の時にはあまり考えられないことでした。行く前は何か助けてあげられることは助けてあげようと思っていましたが、実際は助けてもらうことの方が多かった気がします。MKFの子供たちは、遊ぶ時と仕事をする時のケジメがしっかりしていました。
(5年 渡辺嶺子)

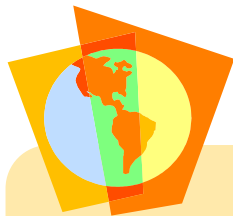


クリスマス大運動会の様子

あっという間の9日間でした。「夢でも見ていたのかな」という気持ちにたまになります。
(5年 秋谷真理)

(ゾウに乗って)ふりおとされそうになってびっくりしました。向こう岸でMKFの子供たちが待っていたので、すごく嬉しかったです。ゾウに乗るなんて、もう経験できないことかもしれません。
(5年 戸邊このみ)

本当にタイに行って良かったです。また行きたいと思いました。
(5年 石川麻奈美)



平成17年度スタディツアー募集!

バングラディッシュ・スタディツアー

貧富の格差がはげしいバングラディッシュでは、教育が行き届かず識字はかなり低い状況です。そのため、農村では自立した経営が行われず、都市部では学校に行けないストリートチルドレンがあふれ、大きな社会問題になっています。

このスタディツアーでは、現地の子どもたちや経済支援活動に従事している人たちとの交流を通して、子どもの教育やボランティアのあり方などについて考えます。日本とは全く違う文化に触れ、私たちが持っている常識が通用しないことを実感することで、改めて日本という国での日常生活や日本人である意識を見つめ直す機会になることでしょう。

【期間】 平成17年9月1日(木)～9月9日(金)(9日間) 8月31日 事前研修会

【訪問先】 バングラディッシュ首都ダッカ、および農村部にある地域開発センター

【参加費用】 195,000円

【募集人数】 8名(定員になり次第締め切り) 最小催行人数4名

【旅行企画・実施】 (株)風の旅行社



【申込方法】 下記問い合わせ先までご連絡ください。詳しいご旅行条件を説明した書面と申し込み用紙をお送りいたします。

【お問い合わせ・申し込み先】

モラロジー国際救援運動推進委員会(MIRCO)

〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1

(財)モラロジー研究所内

TEL:04-7173-3216 FAX:04-7176-1177

担当:松延、松村

タイ・スタディツアー

生活習慣の違いや子供たちの教育現状などを実地に体験することで、援助を必要とする国への理解を深め、自らの新しい可能性を発見してみませんか。

【期間】 平成18年2月12日(日)～2月19日(日)(8日間) 2月11日 事前研修会

【訪問先】 タイ・チェンライ県 メーコック財団

【参加費用】 160,000円

- ・含まれる費用: 往復航空運賃、空港使用税、期間中の宿泊費・食費・移動費、コーディネート費
- ・含まれない費用: 旅券(パスポート)、海外旅行傷害保険費、集合前及び解散後の移動費
その他個人的諸経費、自由行動中の諸経費

【応募資格】

- ・年齢18歳以上(20歳未満の方は保護者の承諾書が必要)
- ・健康状態が良好な方
- ・当会の活動に関心がある方

【募集人数】 10名(定員になり次第締め切り)

【申込締切日】 平成18年1月10日(火)
申し込み用紙をご請求ください。

【お問い合わせ・申し込み先】

(財)麗澤海外開発協会 事務局(岡戸)

〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1

TEL:04-7173-3165 FAX:04-7173-8953

E-Mail: emiokado@ga.reitaku-u.ac.jp



平成16年度事業報告

平成16年度 収支決算書 (単位円)

1. 技術者の派遣と支援事業への助成

<ネパール>

東洋療法(鍼灸・指圧)により、住民の健康回復に寄与するため、日本人鍼灸師の畑美奈栄氏を派遣して、治療技術者の育成および治療に使用する「もぐさ」製造に関する事業に対して助成した。日本大使館や当協会の協力を得て、カトマンズ市郊外のチャランケル村に建設された「クリニック兼もぐさ工場」が4月25日に竣工し新たな活動の拠点として始動した。

[建物の概要]

住所 カトマンズ市チャワラケル村ワード9
(カトマンズ市から南西15キロ)

敷地面積 795㎡

建物概要 鉄筋コンクリート造3階建

1階	もぐさ製造作業所	141.04㎡
	バス・トイレ	9.25㎡
2階	クリニック、事務室等	141.04㎡
3階	多目的ホール	141.04㎡
合計		432.64㎡

<タイ>

タイ北部チェンライ県で、生活が困窮している少数民族の子供に対して生活・教育支援施設の運営を行っているメーコック財団へ事業運営費の一部を助成した。メーコック財団の技術指導員として関口輝比古氏を派遣した。(平成16年6月まで)

2. 海外研修旅行の実施

タイスタディツアーを実施して、海外ボランティア活動を体験学習し、タイ社会の現状理解を深めた。

日程 平成17年2月13日(日)～2月20日(日)(8日間)

参加者 4名

概要 メーコック財団が実施する少数民族の小・中学生への教育支援施設におけるボランティア活動

3. 海外視察

4月25日にネパールの「クリニック兼もぐさ工場」の竣工式に廣池英行理事、木下廣太郎理事、白木和彦評議員、望月雄二評議員が出席した。また、現地の運営状況と今後の活動方針について打ち合わせを行った。

4. 広報活動

ニューズレター第2号(7月)、第3号(12月)を発行した。

インターネットホームページを改定した。URL: Reitaku.or.jp

5. 賛助会員募集

賛助会員、竹原基金の募集を実施し、次のとおり加入があった。

賛助会員 法人13社、個人81名 寄付金65件 竹原基金92件

収入の部		支出の部	
基本財産利息収入	350,959	給料・手当	107,950
賛助会費収入	1,660,000	会議費	715,547
寄付金収入	783,000	旅費交通費	39,540
竹原基金収入	1,699,221	通信費	145,339
受取利息収入	907,911	消耗品費	80,261
当期収入合計	5,401,091	印刷費	20,184
前期繰越収支差額	10,294,059	交際接待費	10,000
収入合計	15,695,150	雑費	91,430
		海外旅費	2,574,170
		図書資料費	36,391
		助成費	500,000
		当期支出合計	4,320,812
		次期繰越収支差額	11,374,338
		支出合計	15,695,150



ネパールに建設したクリニック兼もぐさ工場

連載コラム

深夜バス ダラムサラ行き

第2回

インドの首都デリーから北へ600km、ダラムサラはダライラマ14世が中国の弾圧から逃れ、亡命政府を置いたことで一躍有名になった。ガイドブックには「ダライラマに会える」と書いてあった。これを真(ま)に受けた私は、デリーから深夜バスで12時間の旅を決意した。

バスの座席は広いが2人掛けの席に3人詰め込まれるのだから堪らない。しかも私の席は3人掛けの真ん中である。私の右隣は油断のならない目つきをした行商人らしいインド系の男性、左側は人の良さそうなチベット系の男性、日本にもいる田舎の村長さんのような顔つきである。「行商人」も声を掛けてくるが、自然、チベット系の「村長さん」との会話が多くなる。

もう満員なのだが、バスは何度も停

車し新たな乗客を積みこんでいく。中途客は運転手の収入になるようだ。そうでなくては、これほど熱心に停車しない。中途客のほとんどはチベット系でボロ雑巾のような身なりをしている。睡眠を妨害された乗客に小突かれるようにして奥の通路に潜っていく。安住の地のないチベット難民の眼が哀しげだった。

突然のブレーキ音が深夜の安眠を引き裂いた。バスは激しく揺さぶられながら土手へと転がり落ちていった。バスの中では血まみれで泣き喚く乗客で阿鼻叫喚の様相を呈していた。私たちは我先にとバスから逃げ出した。

冬の北部山岳地帯の夜は冷え込む。私は全く途方に暮れてしまった。村長さんは「バス会社から救援車を待つ」と言う。行商人に尋ねると「次に来る

バスに乗る」。私は行商人と共に行動をすることにした。この寒さの中、いつ来るか当てもない救援バスを待てない。私の決断を村長さんに伝えた。村長さんは哀しそうな表情のまま笑っていた。

行商人の動きは素早い。疾走してくるバスを止め、運転手に話をつけてバスに乗り込んだ。バス内は満員だったが、何とか私たちの座席は確保できた。行商人は自分たちの起きた事故について大きな声で話し始めた。乗客たちは迷惑がるところか、興味深そうに話に聞き入っていた。

夜が白みかけてきた。まもなくダラムサラだ。私たちに運賃は請求されなかった。村長さんたちは、まだ今ごろ救援バスを待っているのだろうか。

(A.K)



— ネパール現地報告 —

もうすでにご存知だと思いますが、ネパールにも大きな変化がありました。2月1日午前10時から、テレビラジオを通じて「国王が内閣を総辞職させ、自ら政権をにぎる」と発表がありました。

前日からインターネットが繋がらなくなり、放送直後から固定電話、携帯電話とも通話ができなくなりました。村を走っているバスの運行が止まり、スタッフを市内まで送りましたが、いたるところで軍隊が警戒にあたっていて異常な感じを受けました。自宅へ帰っても明日からのことが分からなく、また外部と連絡が取れないので、不安な夜を過ごしたのは私だけではないと思います。

3日から一部の地区で1日2～3時間は市内電話が開通、ようやく7日の夕方から国内・国際電話が可能になりました。しかし工場の電話は固定電話ではなく無線電話のため、しばらくは通話できませんでした。

一番困ったのはEメールが使用できないことでした。日本事務局との連絡が取れず、無事を知らせる方法がありませんでした。

今回のこの事件では、国王が政権を取ることにより国が良くなるだろうという市民の声も聞かれますが、一方では1990年の民主化で得た民主主義に違反するという声も聞かれます。いずれにしても、1日も早く平穏な国に戻ることを切に希望しています。



現地駐在
畑 美奈栄(鍼灸師)

麗澤海外開発協会が「伝統の日」(柏会場)に出展します

平成17年6月4日(土)と5日(日)にモラロジー研究所・廣池学園が主催する「伝統の日」柏会場において、麗澤海外開発協会とモラロジー国際救援運動推進委員会(MIRC)が共同でテントを設置して出展いたします。出展会場において写真展示、タイやネパールの民芸品などのグッズ販売等を行いますので、ぜひお立ち寄りください。



会場の様子

たくさんのご支援、ありがとうございます

(平成16年11月から平成17年3月末日)

昨年11月から会員へのご入会ならびに竹原基金へのご協力等をお願いしましたところ、皆様から多大のご協力をいただきました。紙上を借りて厚く御礼申し上げます。お寄せいただいた会費や基金・寄付金は、東南アジア諸国で貧困等の理由で学校へ行けない子供たちに対する教育助成事業、ネパールにおける鍼灸専門家の育成と無料巡回治療を実施する事業等に役立たせていただきます。今後とも、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

種類	年 額
個人会費	1口 1万円(1口以上)
法人会費	1口 1万円(3口以上)
一般寄付金	任意の寄付金を募ります
竹原基金	任意の寄付金を募ります

郵便振替：口座番号 00120-6-499164

名義(財)麗澤海外開発協会

通信欄にご寄付の種類をご記入ください。

銀行口座：東京三菱銀行松戸支店 普通4057567

名義(財)麗澤海外開発協会

個人会費

石田隆一、白木和彦、藤村薫、大橋政夫、廣池幹堂、所一彌、中村修一、荒木郁雄、大河原良雄、杉浦廣道、宮脇常夫、山田雅雄、望月一雄、岩田啓成、古川定邑、西村利行、戸川賢一、横山守男、内田八代、木野村教眞、桑山清和、齋藤芳男、高松昭英、市野忠志、内田誠一郎、望月敏雄、望月淑子、俣野幸昭、山口マーク、奥山恵俊

法人会費

合資会社川貞高店(古川定邑)、株式会社ピアかざりや(新井秀啓)、野田ミート株式会社(野田好秋)、大田モラロジー事務所(松田貞夫)、横山印刷株式会社(横山明弘)、有限会社白木園芸(白木和彦)、河北モラロジー事務所(箱田外代治)、株式会社アイディ(伊藤一郎)

一般寄付金

篠原正隆、大山寿々枝、高松クニ子、所一彌、木野千代子、杉浦廣道、宮脇常夫、御代川克之、山田雅雄、岩田啓成、島村弘子、木村多加志、内田八代、桑山清和、阿部邦夫、奥山恵俊、望月雄二、野田ミート株式会社(野田好秋)、堺北モラロジー事務所(琴谷達郎)

竹原基金

白木和彦、大橋政夫、ウヰマワツ女子、山田莊一、篠原正隆、飯島孝夫、所一彌、中村修一、阿部榮次、荒木郁雄、野田好秋、橋本ハルコ、宮脇常夫、御代川克之、山田雅雄、井上千多枝、岩田啓成、西村利行、竹政三和、横山守男、安達俊子、内田八代、戸辺治朗、戸辺みな子、齋藤久子、奥山恵俊、野田ミート株式会社(野田好秋)、河北モラロジー事務所(箱田外代治)、竹原茂先生出版記念会、株式会社めこん(桑原農)、高知県モラロジー協議会(中平明)、財団法人モラロジー研究所(廣池幹堂)

(敬称略)

会費、寄付金をお寄せいただいた方のお名前は、会報に掲載させていただきます。掲載不要の方は振込用紙の通信欄にその旨をご記入いただくか、事務局までお知らせください。ご連絡のない場合は、掲載に同意いただいたものとさせていただきますので、ご了承ください。(麗澤海外開発協会事務局：04-7173-3165)